



マスコミに説明をする本田会長

# 第2弾 顔認証付き カードリーダー調査結果

## カードリーダーで不正防止は不可能

### マスコミ発表し実態訴える

現在開会中の臨時国会で岸田首相は、来年秋に健康保険証を廃止しマイナンバーカードと一体化する方針をめぐり、「総点検とその後修正作業の状況を見極めた上で、さらなる期間が必要と判断される場合には、健康保険証の廃止の時期の見直しも含め適切に対応する」と、従来の主張を繰り返して述べています。

協会では、医療現場の実態を伝え、システムが適正に運用されるまでは保険証廃止の延期を求め、活動を継続しています。その一環として、「第2弾 顔認証付きカードリーダーに関するアンケート調査」を行い、その結果を県内報道関係者に発表しました。テレビ・新聞7社が出席し、本田会長が対応しました。

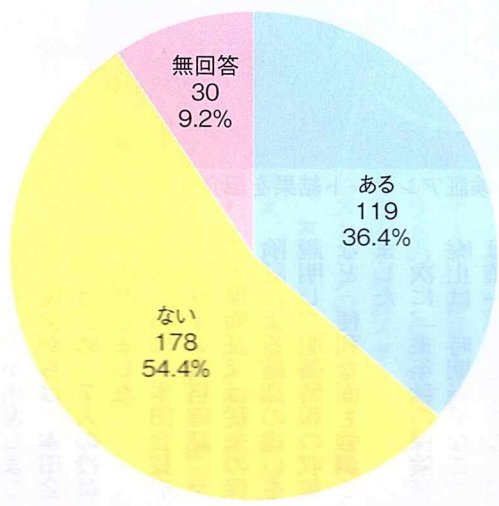
顔認証ができなかった医療機関は62%に達し、その原因は人的なミスではなく、機械の認証エラー(64%)、操作ミスは32%であることを説明し、5種類の機械で認証の仕事が違うので、複数医療機関・調剤薬局を利用する患者は覚えられず、タッチパネルの配列もその都度変わるので、高齢者にとってはストレスに感じていることを強調しました。

カードリーダーには目視モードが備わっていることから、顔認証と併用すれば窓口業務の負担軽減になること、政府は導入目的で「なりすまし受診」を挙げているが、不正は家族や身内間で起こっており、暗証番号が他者に伝われば不正受診は防ぎようがないことを説明し、「オンライン資格確認は従前の保険証のように入力資格が変更された場合に行うなど緩和をすることで患者も、医療側も負担軽減に繋がる」と説明しました。

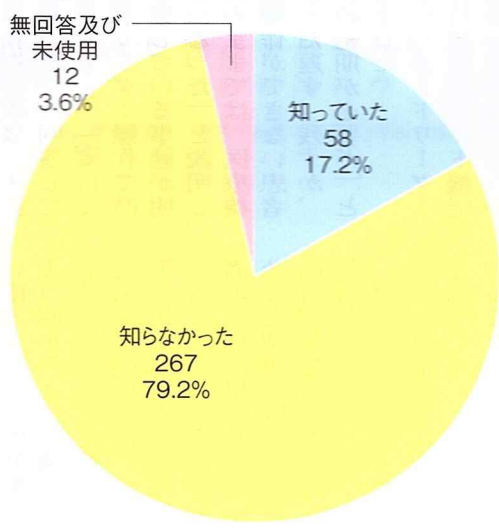
最後に、本田会長は自院に通院する後期高齢者100人を対象にした調査結果を紹介し、カードリーダーの操作が可能か否かを聞いたところ、「単独で操作できたのは2割」「不可能又は要援助が5割弱」だった。このままでは来年秋は現場は混乱する」との結果に記者の注目が集まりました(図3)。さらに、カードリーダーの導入に医療機関も、国民も、翻弄されている。結局、得するのはメーカーだ。

記者発表は同日夕方、ニューズや翌日の新聞に掲載されました。なお、集計結果は11月下旬に上京し、県選出国会議員に直接手渡し、現場の声を届けます。また、詳細は本紙3面に掲載しているほか、全文は協会ホームページの「私たちの考え」で公開いたしますのでご覧ください。

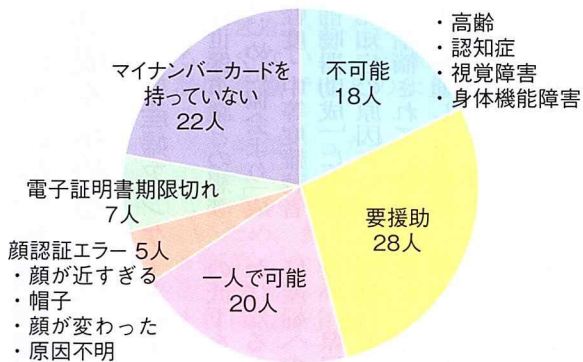
【図1】顔認証付きカードリーダーの保守料はありますか



【図2】「目視確認モード」があることをご存じでしたか



【図3】75歳以上100人の顔認証付きカードリーダーの操作



高齢・認知症・視覚障害・身体機能障害

顔認証エラー 5人  
・顔が近すぎる  
・帽子  
・顔が変わった  
・原因不明